



# 80 豊川

直轄改修工事着手から80年  
～地域の安全・安心と発展を支える～



国土交通省 中部地方整備局  
豊橋河川事務所

## 1 放水路工事／小坂井・平井排水機場／霞堤締切

### 放水路工事



豊川放水路 竣工

豊川の洪水被害を軽減するため、昭和13年度(1938年)から直轄改修工事に着手しました。着手したはじめの頃は、本川の運河化に主力をおく方針が進められ、本川11.6km地点から三河湾までの放水路工事の着手は昭和18年度(1943年)となりました。

その後、太平洋戦争の影響などにより工事は殆ど進捗しない状況が続きましたが、昭和28年度(1953年)にようやく放水路工事が軌道に乗り出しました。その後、相次いだ豪雨災害を踏まえて、放水路計画を一部変更して工事を進め、着工以来27年目となる昭和40年度(1965年)に完成しました。



豊川下流部の各施設位置図

放水路は、分派点の豊川市行明町から河口部の豊橋市前芝町までの延長6.6km、川幅120~160m、約60戸の家屋移転を伴う工事であり、戦後における我が国三大放水路(太田川、狩野川)とされています。

放水路工事では、分流堰設置、新川開削、築堤・護岸、新川開削によって生じる内水排除のための樋管・樋門、排水機場の設置、横断する鉄道、道路の架け替えや用排水路の付け替えを行っています。

### 小坂井・平井排水機場

放水路工事に関連し、小坂井排水機場及び平井排水機場を設置しました。

#### 小坂井排水機場(国管理)

放水路右岸3.0km付近において、走川、善光寺川の内水排除を目的に集水区域601ha、排出量8.0m<sup>3</sup>/sの排水機場を昭和40年度に設置しました。



昭和40年度に完成した小坂井排水機場

#### 平井排水機場(豊川市管理)

放水路右岸1.7km付近において、小坂井町平井地区の内水排除および下水排水を目的に集水区域156ha、排出量3.88m<sup>3</sup>/sの排水機場を昭和39年度(1964年)に設置しました。



昭和39年度に完成した平井排水機場

### 霞堤締切

放水路工事に関連し、右岸側の大村、当古、三上、二葉の霞堤は昭和39年度から昭和41年度にわたって締切りました。

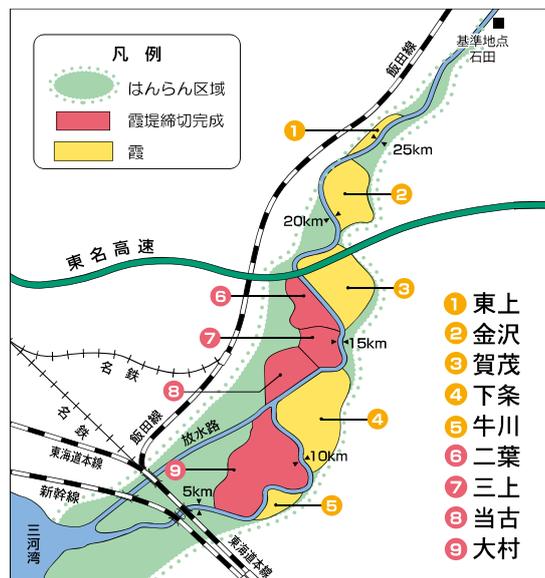


当古霞堤締切前航空写真(昭和34年5月8日)



当古霞堤締切後航空写真(昭和52年9月18日)

航空写真データ(国土地理院) <http://mappps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1> を基に豊橋河川事務所作成



放水路工事に関連した霞堤の締切箇所

## 2 江島破堤 / 築堤工事

昭和44年(1969年)8月、台風7号により石田地点水位で計画高水位に迫る出水となり、豊川左岸の旧一宮町江島の堤防が決壊し、浸水被害が発生しました。

この被害を受けて、速やかに緊急復旧工事を行い、その後、築堤工事を完成させました。



現在の破堤箇所状況



昭和44年8月(台風7号)江島堤防決壊箇所



昭和44年 災害復旧後の江島堤防 一宮町江島

## 3 古川排水機場(国管理)

放水路完成以降、昭和44年、46年と大きな浸水被害を受けたことから、放水路右岸11.8km付近において、古川の内水排除を目的として昭和51年度(1976年)に設置しました。

その後、流域の状況や古川の改修状況に合わせて増設し、平成13年度(2001年)に完成しました。

昭和51年6月 第1期工事完成(排水量2.0m<sup>3</sup>/s)  
 昭和63年8月 第2期工事完成(排水量2.0m<sup>3</sup>/s)  
 平成13年3月 第3期工事完成(排水量2.0m<sup>3</sup>/s) 集水区域 551ha 総排水量 6.0 m<sup>3</sup>/s



古川排水機場

## 4 狭さく部対策工事

江島地区での破堤を受けて、改修計画が見直され、豊川本川下流部の河道配分量を見直し、下流部の狭さく部対策に重点をおく改修としました。豊橋市内の吉田大橋より下流(下流部)の川幅の狭いところ(狭さく部)は、昭和44年度から占用家屋の移転補償を開始し、特殊堤により、築堤、護岸、根固め等を施工し昭和62年度(1987年)に概成しました。



昭和48年 豊橋市下地町改修前の豊川右岸狭さく部  
下流に見える橋はJR鉄橋



昭和62年 完成した豊川狭さく部特殊堤



放水路分流点より下流の吉田大橋間は、牛川地区築堤のため、昭和63年度(1988年)から用地買収を開始し、平成14年度(2002年)に概成しました。



牛川地区



吉田大橋下流市街地区  
 上段：施工前(昭和30年代)  
 下段：施工後(平成8年)

## 5 支川間川の改修工事

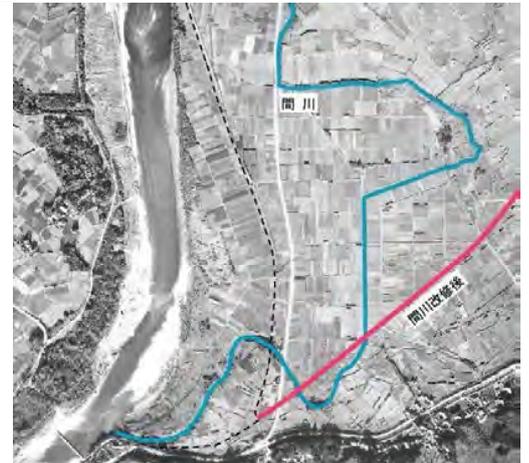
愛知県において管理されていた間川は、昭和41年度より下流部を直轄区間とし、河道の付替を主とする改修工事を進め、昭和63年度に本川合流部を除き概成しました。



間川の改修位置図



間川の改修概成下流部より上流を望む



豊川本川合流部から上流部(改修後)の間川航空写真

## 6 環境整備事業

### 環境護岸

河川環境の保全、創出を目的として、親水性、景観性、生態系保全を配慮した環境護岸工事を昭和58年度(1983年)より、豊川右岸の清須地区、下地地区、左岸の船町地区、今橋地区、牛川地区、江島地区において進め、平成5年度(1993年)に完成しました。



実施後

環境護岸整備の実施例(豊橋市今橋地区)

### 豊川下流部・河口部自然再生

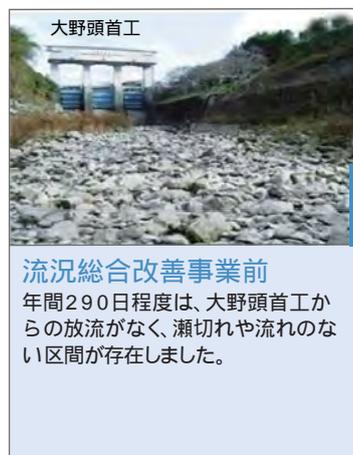
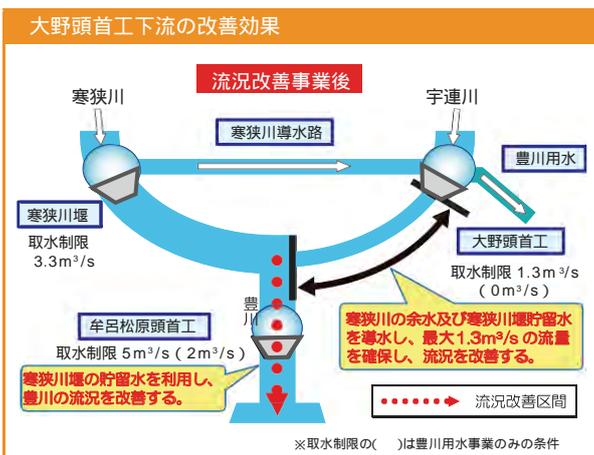
豊川にはかつてヨシ原や干潟がありました。昭和40年代からの開発行為により減少しました。

豊かな自然のある豊川、そしてより良い三河湾につなげるために、平成13年度からかつてのヨシ原や干潟を再生する取組を行っています。



## 7 豊川流況総合改善事業

豊川流況総合改善事業により、寒狭川堰下流及び大野頭首工下流の流水の正常な機能の維持と増進を図っています(平成4年度(1992年)着手、平成14年度事業完了)。現在建設中の設楽ダムとあいまって、寒狭川において寒狭川堰下流へ $3.3\text{m}^3/\text{s}$ を流した余水の最大 $1.3\text{m}^3/\text{s}$ と寒狭川貯留水を利用し、導水により宇連川の大野頭首工から寒狭川合流点の流況を改善(最大 $1.3\text{m}^3/\text{s}$ )するとともに、牟呂松原頭首工直下地点における流況を改善します。



## 8 大村地区堤防整備

豊川右岸大村地区は湾曲部であるとともに、堤防の断面が小さく、堤体漏水や決壊が懸念される状況でした。そのため、平成17年度(2005年)より大村地区における堤防法線と断面を改善する堤防補強工事を実施し、平成23年度(2011年)に一連の堤防整備が完成しました。



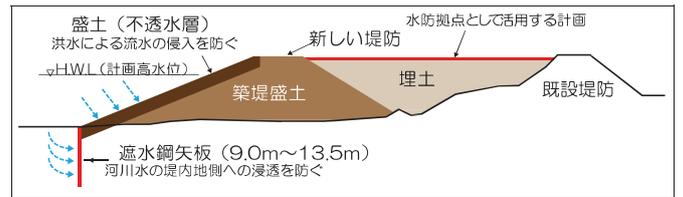
大村地区堤防整備(豊橋市大村町、下流より上流を望む)



築堤施工状況



大村地区工事断面図



## 9 河道掘削

豊川では、豊川水系河川整備計画に基づき、昭和44年8月洪水を安全に流下させるために、必要な河道断面が確保されていない箇所(大村地区、豊津地区、江島地区、東上地区、一鍬田地区)において、河道掘削や洪水低下の支障となる河道内樹木の伐採を平成14年度から、下流部より進めてきました。

上流部の新城市一鍬田地区において、平成21年度(2009年)から着手し平成26年度(2014年)に工事が完了したことで、豊川の河道掘削(低水路拡幅)は概成しました。



# 豊川放水路による洪水被害軽減



豊川放水路が昭和40年7月に完成して以来、平成30年11月までに、分流堰のゲート操作を231回(平均4.2回/年、最大年8回)実施し、中下流域の洪水被害軽減に大きく貢献しています。

平成第1位の規模となった平成23年(2011年)9月洪水において、石田地点での流量が約4,000m<sup>3</sup>/sとなり、放水路で最大1,750m<sup>3</sup>/sを分派しました。仮に放水路が整備されていない場合として、分流堰下流本川の下条橋(11.4km)付近で水位を比較すると、約2.7m低下させていたと推測されます。

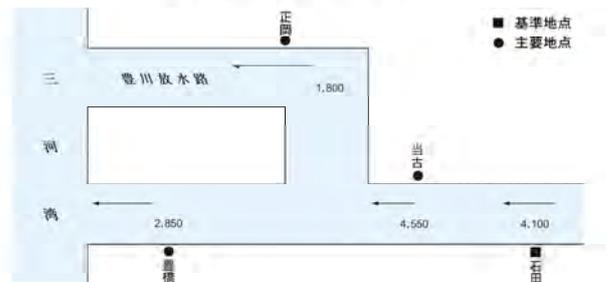
また、平成30年(2018年)9月末に発生した洪水は平成第2位の規模になり、同様に整備効果を試算してみると、豊橋当古地点で約1.5mの水位を低下させていたと推定されます。

引き続き、放水路施設の機能を維持管理し、洪水時の分派操作を適確に行い、洪水被害の軽減を図っていきます。

豊川放水路分流堰



計画高水流量配分図 単位: m<sup>3</sup>/sec

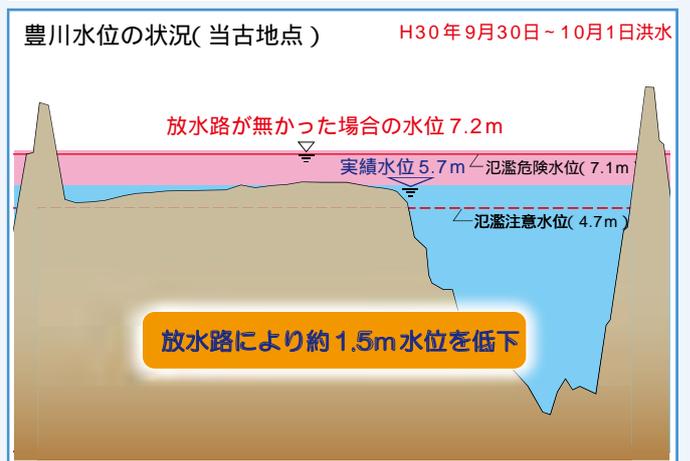


## 平成30年9月30日～10月1日洪水における豊川放水路整備効果の概要

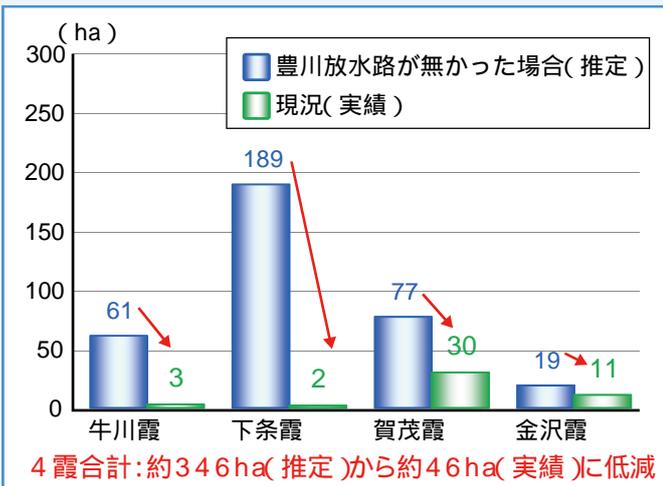
豊川放水路の分流の様子



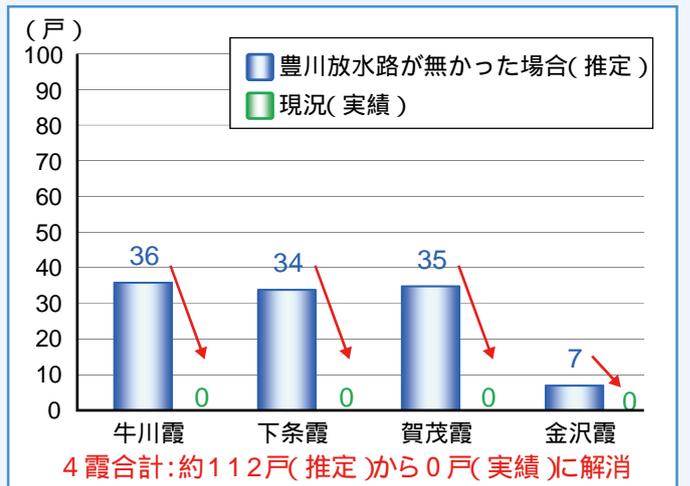
当古地点の水位



各霞における浸水面積(ha)



各霞地区における浸水家屋数(戸)



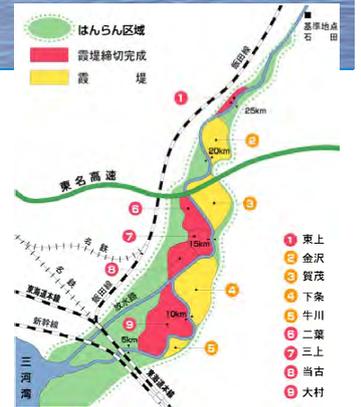
記載の数値は平成30年10月4日時点での試算値であり、今後変更の可能性がります。

# 豊川洪水被害の減災に向けて



## 1 豊川霞堤地区浸水被害軽減対策

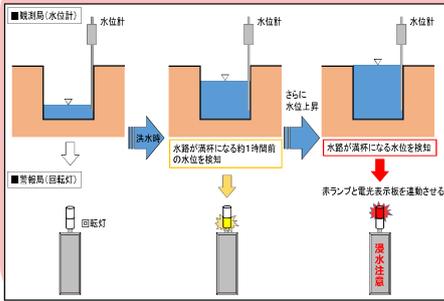
豊川放水路の建設や豊川下流の狭窄部における改修工事を実施したことにより、治水安全度は着実に向上したものの、現存する4つの霞堤地区（牛川、下条、賀茂、金沢）では、平成23年9月洪水に浸水面積440ha、浸水家屋31棟に及び被害が発生するなど、昭和40年度代から現在までにおよそ22洪水、2~3年おきに浸水被害が発生しています。霞堤地区の浸水を軽減するため、平成28年7月に関係自治体や地域等の意見を踏まえ、「豊川霞堤地区浸水被害軽減対策計画」を策定しました。現在、本計画に基づき、霞堤地区内の浸水状況などのソフト対策を推進し、小堤設置などハード対策に向けた用地調査等を進めています。



豊川沿川の霞堤地区

### ■主なソフト対策の取組

#### ■ライブカメラ・簡易水位計等の設置



豊橋河川事務所HP

#### ■豊橋市・豊川市ハザードマップの公開



ハザードマップのイメージ

#### ■浸水案内看板等の設置



設置予定看板のイメージ

#### ■浸水開始水位等の設定



霞堤地区における浸水開始水位のイメージ

#### ■防災情報の周知



霞堤地区の防災情報ポータルサイト



中学校へ出前講座の様子

### ■ハード対策の主な取組

#### ■築堤

各霞堤地区の浸水被害の軽減を図るため、霞堤の開口部に小堤を設置します。

小堤の横断イメージ

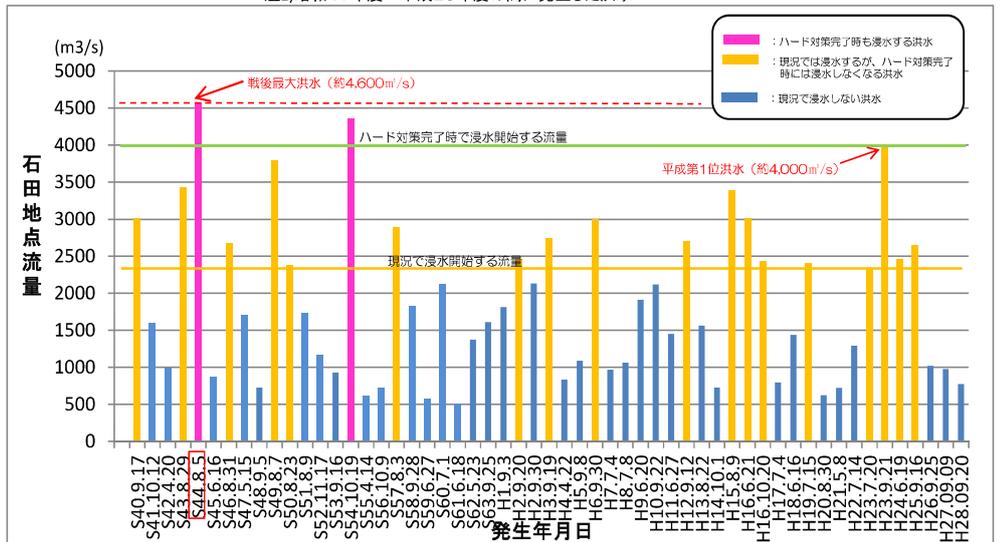


※今後の測量や詳細な設計等を踏まえた施設検討等により、変更する可能性があります。

### ■ハード対策の実施による効果

ハード対策<sup>注1)</sup>により、過去に浸水が発生した20洪水<sup>注2)</sup>のうち18洪水の浸水を解消できることとなります。

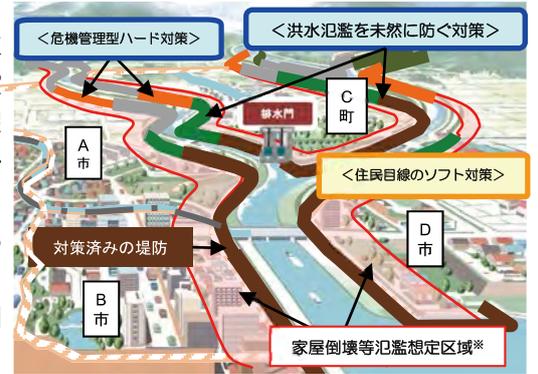
注1)ハード対策：河川整備計画で予定している河道改修、小堤設置、設楽ダム(牛川霞については暫定堤)  
注2)昭和40年度～平成28年度の間に発生した洪水



## 2 「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく豊川の減災に係わる取組

平成27年9月の関東・東北豪雨を踏まえ、国土交通省では「水防災意識社会を再構築」する取組を進めています。「施設の能力では限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」へと意識を変革し、住民目線のソフト対策、氾濫が発生した場合にも被害を軽減するハード対策を推進しています。

豊川において、関係首長参画のもと平成28年9月に「豊川の減災に係る取組方針」を策定し、豊川水系河川整備計画に基づく河川整備を推進するとともに、「逃げ遅れゼロ」と「社会経済被害の最小化」を目指し、関係機関と連携して計画的・一体的に実施しています。



※家屋の倒壊・流出をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸浸食が発生することが想定される区域

### 住民の避難行動を促すための（逃げ遅れゼロに向けた）主な取組

#### ◆豊川の歴史、自然、防災知識の普及の取組

- ① 住民、教育機関（小、中、高、大学）、企業等への出前講座の実施、みずから守るプログラムの活用
- ② 地元との合同巡視の実施
- ③ 治水と環境が調和した豊川への理解を促す親水空間の整備、維持管理、活用



豊川アダプトによる河川美化清掃活動



出前講座の様子



水害・土砂災害写真展の様子(新城市)



水防団との合同巡視



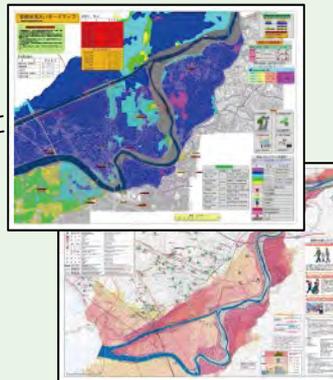
霧ウォークを実施



豊川放水路分流堰見学会

#### ◆わかりやすい情報提供等

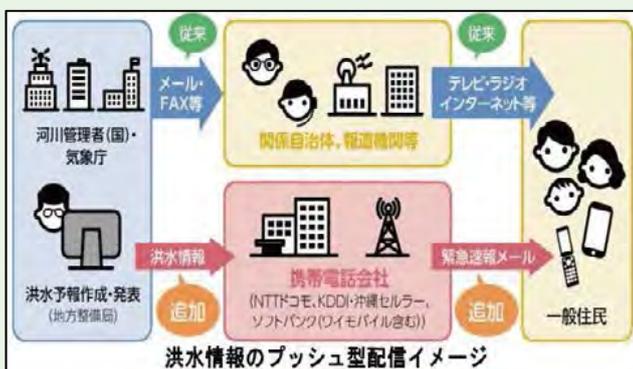
- ① 住民へのわかりやすい避難情報の発信
- ② 市が避難情報を発信するために必要な情報の提供
- ③ 洪水ハザードマップの作成着手、まるごとまちごとハザードマップの作成着手等
- ④ 国・県による洪水ハザードマップ作成支援
- ⑤ 避難場所、避難ルートの検討
- ⑥ 避難勧告等発令エリアの検討
- ⑦ 防災情報伝達ツールの改良・開発
- ⑧ 水害リスクの高い区間の監視体制の整備



ハザードマップの作成支援



危機管理型水位計の設置



洪水情報のプッシュ型配信の運用開始



豊川地区防災情報ポータルサイト



避難訓練の実施

## タイムラインの作成

避難勧告の発令に着手し、国・県・市が連携したタイムラインの作成

	国土交通省	交通サービス	市町村	住民
台風発生 台風上陸の可能性	○台風予報 ○台風に関する記者会見 ○連絡体制等の確認 ○協力機関の体制確認	○交通サービス ○運行停止予告	○広域避難体制 ○の確認・周知	○防災用品 ○の準備
台風上陸 災害発生 の危険性	○台風に関する記者会見(特別警報発表の可能性) ○大雨・洪水等警報 ○リゾンの派遣	○運行停止 ○順の確認・公表	○広域避難 ○の開始	
台風上陸 12時間前	○市町村長へ事態切迫状況の伝達	○運行停止 ○施設保全・待避終了	○避難勧告・ ○指示	○屋内安全 ○確保
台風上陸 0時間前	○はん釜発生情報 ○OTEC-FORCE活動(道路啓開等)	○被害状況 ○の把握	○支援の ○要請	

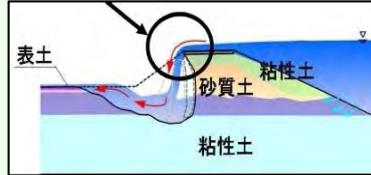
タイムラインのイメージ(国土交通省HPより)

## 危機管理型ハード対策

越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する対策の推進

	天端の保護
実施区間延長 (重複無し)	1.0km

堤防天端をアスファルト等で保護し、法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊の時間を少しでも延ばします。



断面イメージ図



堤防天端の補修状況

## 社会経済被害の最小化を目指した主な取組

### 洪水を河道内で安全に流す対策

霞堤地区における小堤設置に向けた取組み  
設楽ダム建設

堤防整備  
河川管理施設の適切な維持管理

河道掘削

#### 設楽ダムの建設

計画内容

<洪水調節>

設楽ダムの建設される地点における計画高水流量毎秒1,490m<sup>3</sup>のうち、毎秒1,250m<sup>3</sup>の洪水調節を行う。

<流水の正常な機能の維持>

下流の既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進を図る。

<かんがい>

愛知県東三河地域の農地約17,200haに対するかんがい用水として、新たに毎秒0.339m<sup>3</sup>(年平均)の取水を可能とする。

<水道>

愛知県東三河地域の水道用水として、新たに毎秒0.179m<sup>3</sup>の取水を可能とする。



設楽ダム完成予想図

形 式	重力式コンクリートダム
堤 高	約129m
流域面積	約62km <sup>2</sup>
湛水面積	約3km <sup>2</sup>
総貯水容量	9,800万m <sup>3</sup>
洪水調節容量	1,900万m <sup>3</sup>

#### 河川管理施設の適切な維持管理



豊川放水路分流堤 耐震工事の様子



堤防・護岸点検の様子

### 水防活動の強化

実働訓練の実施

河川管理者等と水防団等

の情報共有

水防活動の担い手の確保対策

堤防道路と主要道路との接続



水防訓練

### 河川防災ステーション及び防災拠点等の検討

河川防災ステーション及び防災拠点

の検討

堤防道路と主要道路との接続



豊川防災センター

### 流域住民と協働した河川の治水機能等の保全の取組

住民の活動支援方法の検討

流域住民への働きかけ



伐木の希望者への無料配布

### 排水計画・復旧計画の検討

排水計画の検討

堤防決壊シミュレーションの実施

堤防道路と主要道路との接続

災害時及び災害復旧に対する支援



堤防決壊シミュレーション



豊橋市竜巻被害ブルーシート提供

### 堤防の強化

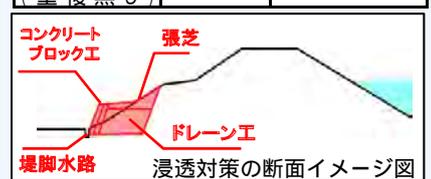
護岸整備、浸透対策の実施



浸透対策の実施例(牛川地区)

洪水を安全に流すためのハード対策

	浸透対策	パイピング対策
実施区間延長 (重複無し)	5.2km	5.2km



浸透対策の断面イメージ図

1881

1937

1938  
1940

1950

1955  
1960

1965

1970

1975

1980

豊川改修計画・事業

明治 14~15年  
河川工事を行い、霞の一部を連続させる

大正 13年  
5月 豊川改修促進期成同盟会結成、工事の早期着手を陳情

昭和 2年  
内務省土木局にて豊川改修計画策定に着手

昭和 11年  
豊川放水路計画が再検討される

昭和 13年  
5月16日 内務省名古屋土木出張所豊川改修事務所設置  
(豊橋市西八町)、豊川の改修に16年継続事業として着手  
11月11日 豊川改修事務所庁舎新築移転(豊橋市三ツ相町)



昭和 29年  
1月1日 13号台風による海岸堤防復旧に着手

昭和 36年  
5月3日 小坂井排水機場設置工事に着手

昭和 38年  
4月1日 豊川の高潮堤完成  
7月17日 豊川放水路分流堰起工式

昭和 40年  
1月2日 豊川右岸、大村、当古、三上、二葉の霞堤締切着手  
4月1日 間川改修工事に着手  
5月30日 小坂井排水機場完成  
7月13日 豊川放水路工事完了

昭和 41年  
4月1日 豊川水系が一級水系に指定され豊川水系工事実施基本計画が策定される

昭和 44年  
4月 豊川本川下流狭窄部対策に着手

昭和 45年  
11月18日 豊川江島築堤用地買収に着手

昭和 46年  
3月 豊川石田の基本高水流量7,100 m<sup>3</sup>/s (1/150) 計画高水流量4,100 m<sup>3</sup>/sに改訂

昭和 49年  
4月 朝倉川2条7号区間着手  
10月 古川排水機場設置工事に着手

昭和 51年  
6月 古川排水機場 第1期工事完了

昭和 53年  
4月 設楽ダム実施計画調査着手  
4月 神田川2条7号区間の改修に着手

昭和 57年  
12月21日 豊橋市中野町に豊橋工事事務所新庁舎完成、移転



豊川的主要災害

- 明治 26年 8月 18日 豊川洪水  
石田水位 8.37m
- 明治 31年 9月 7日 豊川洪水  
石田水位 8.82m
- 明治 37年 7月 10日 豊川洪水  
石田水位 9.06m、約 6,000 m<sup>3</sup>/s
- 大正 12年 6月 9日 豊川洪水  
当古橋にて 23 尺 5 寸、石田水位 6.51m
- 昭和 4年 8月 16日 台風により豊川洪水  
石田水位 6.36m
- 昭和 10年 8月 28~29日 台風により豊川洪水  
石田水位 5.65m



■昭和 12年 7月 13日 豊川洪水  
浸水 2,600ha、国道浸水 1.8m、石田水位 6.50m

- 昭和 28年 9月 25日 台風 13号により豊川洪水  
石田水位 4.9m、海岸堤防が各所で破堤
- 昭和 34年 9月 伊勢湾台風により豊川洪水  
石田水位 6.48m、約 3,200 m<sup>3</sup>/s
- 昭和 37年 7月 28日 台風 7号により豊川洪水  
石田水位 6.55m、約 3,300 m<sup>3</sup>/s



■昭和 40年 9月 台風 24号により豊川洪水  
石田水位 6.48m、約 3,200 m<sup>3</sup>/s

■昭和 43年 8月 29日 台風 10号により豊川洪水  
石田水位 7.24m、約 3,400 m<sup>3</sup>/s  
支川杉川の決壊などにより多くの被害



■昭和 44年 8月 5日 台風 7号により豊川洪水  
石田水位 8.04m、約 4,600 m<sup>3</sup>/s (戦後最大の洪水)  
旧一宮町江島及び支川杉川の堤防決壊により多大な被害

■昭和 48年 6月~8月 豊川濁水  
■昭和 49年 7月 7日 台風 8号により豊川洪水  
石田流量約 3,800 m<sup>3</sup>/s

■昭和 52年 9月~53年 7月 豊川濁水  
■昭和 53年 8月~56年 9月 豊川濁水  
■昭和 54年 10月 19日 台風 20号により豊川洪水  
石田水位 7.42m、約 4,400 m<sup>3</sup>/s



■昭和 57年 8月 3日 台風 9号により豊川洪水  
石田水位 6.00m、約 2,900 m<sup>3</sup>/s

■昭和 59年 1月~ 豊川濁水  
昭和 59年 1月~159日間、昭和 59年 8月 12日間  
■昭和 59年 10月 1日~60年 3月 豊川濁水  
昭和 60年 1月 28日 豊川用水の水ガメ、宇連ダムの貯水率ゼロ



1985

豊川改修計画・事業

昭和61年

3月 朝倉川改修工事 概成



昭和62年

9月25日 豊川今橋環境護岸(遊歩道) 工事着手  
10月1日 豊川左岸親水護岸工事着手

昭和63年

3月 豊川本川下流狭窄部対策概成  
3月 間川改修工事 概成  
4月 豊川本川(牛川地区) 狭窄部対策に着手  
4月18日 豊川左岸親水護岸完工式  
8月 古川排水機場 第2期工事完了

昭和64年/平成元年

12月29日 豊川今橋環境護岸(遊歩道) 完成

平成2年

2月 豊川水系の水資源開発水系(フルプラン水系) 指定

平成4年

4月 豊川流況総合改善事業に着手

平成9年

3月 東上霞堤締切完了

平成10年

2月27日 豊川が洪水予報指定河川に指定  
4月 寒狭川堰本格運用開始

平成11年

12月 豊川水系河川整備基本方針を策定

平成13年

3月 古川排水機場 第3期工事完了  
11月 豊川水系河川整備計画(大臣管理区間) を策定

平成15年

3月 豊川本川(牛川地区) 狭窄部対策概成  
3月 豊川流況総合改善事業が完了  
3月7日 耐震対策として清須地区堤防補強工事に着手  
4月 設楽ダム建設事業に着手

平成18年

3月28日 耐震対策として清須地区堤防補強工事 完了  
4月 豊川水系河川整備計画(大臣管理区間) を一部変更  
9月22日 大村地区堤防整備工事に着手

平成19年

3月28日 内水対策として小坂井排水機場の改良工事 完了

平成21年

8月8日 一鍬田地区の低水路拡幅に着手

平成23年

7月19日 大村地区堤防整備 完了

平成24年

9月22日 豊川放水水路分流堰耐震工事に着手

平成25年

3月25日 豊川放水水路分流堰耐震工事 完了



平成27年

3月27日 一鍬田地区の低水路拡幅 完了

平成29年

3月 設楽ダム転流工 工事着手



1990

1995

2000

2005

2010

2015

2017

豊川の主な災害

■昭和60年1月28日~2月9日

佐久間緊急導水

■昭和60年2月1日~3月1日

豊川本川から取水

■昭和61年8月28日~62年1月 豊川渇水

■昭和62年8月24日~昭和63年5月24日 豊川渇水

■平成6年6月~ 豊川渇水(131日間)



湖底が現れた宇連ダム

■平成6年9月29日 台風26号により豊川洪水

石田水位6.0m、約3,000 m<sup>3</sup>/s

■平成7年2月~ 豊川渇水(74日間)

■平成7年8月~平成8年3月 豊川渇水(235日間)

■平成8年5月~ 豊川渇水(63日間)

■平成8年8月~ 豊川渇水(119日間)

■平成15年8月9日 台風10号により豊川洪水

石田水位6.92m、約3,400 m<sup>3</sup>/s



豊川市三上町洪水が堤内地に浸水

■平成17年6月~ 豊川渇水(72日間)

■平成18年1月~ 豊川渇水(37日間)

■平成23年9月21日 台風15号により豊川洪水

石田水位7.61m、約4000 m<sup>3</sup>/s(戦後2番目の洪水)



豊川市賀茂地区の  
浸水被害

■平成24年6月19日 台風4号により豊川洪水

石田水位5.28m、約2,500 m<sup>3</sup>/s

■平成30年10月 台風24号により豊川洪水

石田水位7.20m、(平成2番目の洪水)

# TOYOGAWA



直轄改修工事着手から **80年**  
～地域の安全・安心と発展を支える～

## 直轄改修80周年を迎えて

豊川は、古くから舟運、かんがいに利用され、近代になって農業用水、発電、都市用水や河川空間の活用など様々な恩恵をこの地域に与えてきました。一方、流域では度重なる洪水の被害を発生させ、多くの人命や財産が失われるなど、社会的・経済的に大きな損害をもたらしています。

豊川における本格的な改修は、国の直轄事業として昭和13年に着工されて以来、今年で80年という節目の年を迎えました。この間、沿川住民の皆様の並々ならぬ努力があり、また先人の多大な苦勞を経て多くの治水事業を実施してまいりました。特に、昭和40年に完成した豊川放水路は、洪水被害の軽減に大きく貢献しています。あらためて、沿川地域の皆様や先人の方々に對しまして深い感謝と敬意を表します。我々としては、先人の築いた道筋を辿り、今の最善を尽くし、安全で安心な豊川を次世代に繋げていくことが使命と考えています。

近年、毎年のように全国各地で水害が頻発し、甚大な被害が発生しています。さらに将来の降雨は、気象変動によって激化することが予測されています。このような状況の中、豊川において「施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」との考えに立って、ハード・ソフト対策を一体的に推進し、地域社会全体で備える「水防災意識社会」の再構築が急務となっています。

更なる発展、飛躍していく地域を支えるため、水害に負けない、しなやかで豊かな地域づくりに貢献できる河川改修をはじめとした河川整備の推進を図りたいと考えています。今後とも、皆様の一層のご理解ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成30年12月

第32代 豊橋河川事務所長 澤頭 芳博

## 豊川概要

豊川は、その源を愛知県北設楽郡設楽町の段戸山に発し、山間溪谷を流れて当貝津川、巴川の支川を合わせ南下し、愛知県新城市長篠地先で宇連川と合流し、その後、豊橋平野で宇利川、間川等の支川を集めた後、三河湾に注ぐ幹川流路延長77km、流域面積724km<sup>2</sup>の一級河川です。

源	流	段戸山 (1,152m)
流域面積		724km <sup>2</sup>
幹川流路延長		77km
流域内人口		約22万人 (下流部に67%が集中)
年間降水量		1,800～2,400mm
整備計画目標流量	石田	4,650m <sup>3</sup> /s
河道整備流量	石田	4,100m <sup>3</sup> /s
既往著名洪水流量	戦後最大	昭和44年8月洪水(台風7号)
	石田	4,600m <sup>3</sup> /s
	平成最大	平成23年9月洪水(台風15号)
	石田	4,000m <sup>3</sup> /s

